

嚴肅裡に舉行された

磐中卒業式次第と

橋本校長の訓辭大要
「既報」平町在福島縣立磐中として酒井猪次氏の謝辭ありて、城中等第三十三回二百五つて當日は多門將軍來平に...

題に逢着しても常に忘れて育まれて人となつた者は、健全なる身體と健全なる精神との保持である。

入學好成绩

磐中最近の上級入學者判明せる「十日迄の分」もの左の如く、昨年来の騒動が...

動中静觀

平に報導する。
磐中の校友會誌第三十號を觀せられたが今回は内容が...

平局經由

仙臺第六二九三號、通譯 昭和八年三月八日 仙臺通信局

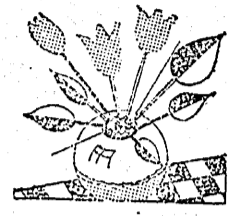
山野邊庄吉殿

私製電話番號簿發行の件昭和八年二月十日附出願私製電話番號簿發行變更の件逕信大臣に於て承認相成候

平新報社

右昭和八年三月拾日受附

平新報



發行日 五月八日發行
編輯兼發行所 山野邊庄吉
副編輯 山野邊庄吉
廣告料 五號十二字一行
一、五號十二字一行
二、五號十二字一行
三、五號十二字一行
四、五號十二字一行
五、五號十二字一行
六、五號十二字一行
七、五號十二字一行
八、五號十二字一行
九、五號十二字一行
十、五號十二字一行

東西!! 東西!! 平大人會

本社に於て去る昭和三年六月二十五日附紙上に平町在住「男性美」肉体の持主番附を發表し大好評を得、其後引續き毎年發表の豫定なりしも一時中絶の處、來る六月中旬を期し「大人會」を平驛前住吉屋支店に結成し、其審査には正確なる衡器を用ひるが、審査の勞を煩はす各位は目下交渉中に付決定を俟つて詳細を發表する。依つて左の番附に御心づきの方は本社版元迄御一報の程を願ふ。



(西) 附番人大 (東) 住在町平 (東)

蒙御免

年 鈴木重助 一九
寄 齋藤寅吉 一九
大竹芳之助 二〇

同同同同同同同同同同同同
南田二南銀新鎌搔大五
諸橋元三郎 二五
若松信吾 二四
江口忠一 二三
谷平治一 二二
渡邊秀之助 二一
吉田友一郎 二〇
橋本芳太郎 一九
江尻康平 一八
清水廣政 一七
大森勇 一六

同同同同同同同同同同同同
長鎌四田材搔鎌三三四南
上田耕作 二六
三井富吉 二四
猪狩六平 二三
根本忠吉 二二
門傳清吾 二一
栗本千代吉 二〇
松本定藏 一九
佐々木龍若 一八
小野永龍精 一七
小野園次郎 一六

同同同同同同同同同同同同
古搔同田南田長一搔堤南五田四中
山田文一 二二
根本武雄 二一
室松光 二〇
平松幹雄 一九
石和由太郎 一八
根本梅吉 一七
渡邊金次郎 一六
高邊貫一 一五
鈴木木村 一四
鈴木木村 一三
鈴木木村 一二
鈴木木村 一一
鈴木木村 一〇
鈴木木村 〇九
鈴木木村 〇八
鈴木木村 〇七
鈴木木村 〇六
鈴木木村 〇五
鈴木木村 〇四
鈴木木村 〇三
鈴木木村 〇二
鈴木木村 〇一
鈴木木村 〇〇

同同同同同同同同同同同同
大上同田鎌三紺三研田二五鎌鎌銀
草野治央 二〇
阿部長太郎 一九
高根東次郎 一八
山野福春 一七
新田目春 一六
鈴木江亮 一五
入江源一 一四
青原幸次郎 一三
柏成忠義 一二
金崎滿藏 一一
野邊繁太郎 一〇
野邊繁太郎 〇九
野邊繁太郎 〇八
野邊繁太郎 〇七
野邊繁太郎 〇六
野邊繁太郎 〇五
野邊繁太郎 〇四
野邊繁太郎 〇三
野邊繁太郎 〇二
野邊繁太郎 〇一
野邊繁太郎 〇〇

同同同同同同同同同同同同
新三四搔五中月久同田材大五田四田南田五
井上貞治 一九
石田八郎 一八
大田松吉 一七
佐藤長三 一六
野崎敬三 一五
佐々木喜八 一四
諸橋治三 一三
石坂久彦 一二
千坂久彦 一一
井坂久彦 一〇
荒坂久彦 〇九
根坂久彦 〇八
山坂久彦 〇七
小坂久彦 〇六
山坂久彦 〇五
山坂久彦 〇四
山坂久彦 〇三
山坂久彦 〇二
山坂久彦 〇一
山坂久彦 〇〇

同同同同同同同同同同同同
二一三古田同南五同同田南四二研銀白同南
石田八郎 一九
大田松吉 一八
佐藤長三 一七
野崎敬三 一六
佐々木喜八 一五
諸橋治三 一四
石坂久彦 一三
千坂久彦 一二
井坂久彦 一一
荒坂久彦 一〇
根坂久彦 〇九
山坂久彦 〇八
山坂久彦 〇七
山坂久彦 〇六
山坂久彦 〇五
山坂久彦 〇四
山坂久彦 〇三
山坂久彦 〇二
山坂久彦 〇一
山坂久彦 〇〇

取 諸橋久太郎 二三
緋酒井清三 二二
行 關内正一 二一
司 山崎忠兵衛 二〇
元進勸 新一報社
元進勸 新一報社
元進勸 新一報社

病室完備 平町南町
光線科
上田外科醫院
電話一二九番

產婆看護婦徒集
願書 四月八日迄(可成至急)
修業年限 產婆看護科を通じ一年
平町一丁目
石城産科婦科學校
校長 鷹崎千代
電話三五七番

生徒募集
光輝ある歴史
堅實なる學風
磐城佑賢學舎
中等科(中學程度)
女子部(高女程度)
入學願書四月四日迄
平町山城
(電話九三番)

吸入用酸素 純度 99%
モノサシ
マカス
ハカリ
秤ノ取緒・鉗糸・修覆致シマス
關内藥局
電話四〇番

文部大臣認可
藤田女學校入學案内

本校教育の要旨
本校ハ實業學校令職業學校規定ニ依リ女子ニ須要ナル裁縫、手藝、家事及高等普通教育ヲ施シ兼テ徳性ヲ涵養シ地方有爲ノ子女ヲ養成スルヲ以テ目的トス。

一、募集人員
1、本 科 一年(二ヶ年卒業) 五十名
2、裁縫專修科 一年(二ヶ年卒業) 百名
3、師範科 一年(二ヶ年卒業) 三十名
4、專攻科 一年(二ヶ年卒業) 二十名
5、本 科 二年 補欠入學 若干名
6、選 修 科 二年(二ヶ年卒業) 若干名

二、各科の内容
(1) 本 科 實科ト共ニ學科高等普通教育ヲ施ス
(2) 裁縫專修科 主トシテ裁縫、手藝等實科ノ實力養成ヲ目標トス
(3) 師範科 小學校裁縫科專任教員ノ養成ヲ主トス
(4) 專攻科 高等女學校卒業程度ノ者ニ裁縫、手藝等中心ニ實科ノ補習教育ヲ施ス
(5) 選 修 科 學力、年齢、科目、材料共ニ自由ニ隨意

三、入學資格
一、本 科 一年 高等二年卒業若シクハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノ
二、裁縫專修科 一年以上ノ學力ヲ有スルモノ
三、師範科 (1) 本校本科ヲ卒業シタルモノ若シクタルモノ
(2) 高等女學校及實科高等女學校ヲ卒業シタルモノ
(3) 專門學校入學者檢定ニ依リ試驗檢定合格者
(4) 專門學校入學者檢定ニ依リ指定ヲ受ケタルモノ
四、專攻科 (1) 本校本科或ハ裁縫專修科ヲ卒業シ學力アリト認メタルモノ
(2) 高等女學校及實科高等女學校ヲ卒業シタルモノ
(3) 專門學校入學者檢定ニ依リ試驗檢定合格者
(4) 專門學校入學者檢定ニ依リ指定ヲ受ケタルモノ
(5) 本校ニ於テ相當ト認メタル裁縫技術學校卒業者
五、本 科 二年 本校ニ於テ相當ト認メタル女學校裁縫專修科二年 尋常小學校卒業後二年以上裁縫手藝ヲ修得シタルモノニテ相當實力アリト認メタル者

五、卒業生の特典

本校本科、師範科、專攻科ノ卒業生ハ高等女學校卒業生同シク專門學校ニ入學スル資格並ニ中等教員受驗資格ヲ得ラル

六、入學手續
志願者ハ三月三十日迄ニ平町藤田女學校ニ提出シテ
追而提出書類考査ノ上證書受附ノ順ニ依リ入學ヲ許可シ改メテ入學許可通知書ヲ送達致シマス。
四月一日午前九時入學式舉行致シマス。

七、寄 宿 舎
寄宿希望ノ方ハ在學證書ノ肩書ニ「寄宿希望」又ハ「寄宿自炊希望」ト書イテ下サイ。

八、其 他
◎詳細ハ本校宛學則請求ナサイ(通信料ニ對シテ別ニ之レヲ定メテアリス、其校希望生ハ其旨明記シテ下サイ。

藤田女學校入學案内追録

新設に就いて。並其要項
家庭又ハ職業ノ關係上一定ノ時間ト所定ノ科目ヲ修得セシメントス
右ノ趣旨ニ添ハシテ選科ヲ別チテ書問部、夜間部ノ二部トス
學力ノ如何ヲ問ハズ年齢ノ制限ヲ附セズ又科目、材料、入學等自由且ツ隨意ニ修業セントスルモノ
修業年限ハ一ヶ年ヲ標準トス
授業料及入學料 選科ノ授業料ハ一ヶ月一圓五十錢トシ、同科ノ入學料ハ金壹圓トス
學費長ハ隨時成績ノ考査ヲ行ヒ選科ノ修得ヲ認メタルトキハ其ノ證書ヲ授與ス
夜間部 大凡 五十名
其 他 夜間部 大凡 三十名
募集人員 夜間部ハ別紙入學案内ニ準ズルモノトス

本校學則第三條各科ノ學科中ニ新ニ「公民科」ヲ加フ。
昭和八年一月
福島縣平町田町
文部大臣 認可
藤田女學校
電話三二八番

石城電話
番號便覽
本社本年度版「石城電話番號便覽」は期日通り三月一日發賣配本を始めました。

題號、内容を改め仙臺遞信局より再認可證をうけ萬遺漏なきを期しました。明るい極く近代色の表紙、地方印刷所では珍らしい出来榮(で、)索引の容易な事携帶に至便な事は今更説明の要はないのです。近く設置される草野局も書込みの出来る様一頁加へてあります。

電話加入の有無に不拘近代人は必ず一冊ポケットにならねばなりません。
一冊定價金貳拾五錢
平新報社